

履修登録の有無にかかわらず、多くの学生、教職員の方の聴講を歓迎いたします

2026年度 春学期・夏学期開講

科学技術政策特論

第5回講義

「防衛装備庁における研究開発」

- 次期戦闘機の国際共同開発ほか -

防衛装備庁 長官官房人事官付 技術人材調整官

小林 将志 氏

防衛装備庁と聞いて、何をしている政府機関かご存じない方が多いと思います。自衛隊は皆さん馴染みがあると思いますが、例えば、陸上自衛隊の駐屯地は札幌市内にも所在しますし、新千歳空港の横には航空自衛隊の基地もあります。そうした場所を外から眺めて、戦車や戦闘機を見たことがある方もいるのではないのでしょうか。このような「防衛装備品」の研究開発を一元的に担っているが防衛省の外局である防衛装備庁です。

防衛装備庁は大変ユニークな組織です。研究職という理系職員が600名以上も勤務し、職員が自身の専門性を発揮して最先端技術を用いた研究開発に携わっています。本日の講義では、最近ニュースで話題の次期戦闘機の開発にも触れながら、防衛装備庁の研究開発について紹介します。秘密のこと以外は何でもお答えしますので、たくさんのご質問が出ることを期待しています。

日時：5月8日(金)

5講目 16:30-18:00

受講方法：

オープンホールによる対面授業

小林 将志先生

札幌市出身。東北大学工学部卒業、首都大学東京大学院システムデザイン研究科修了(博士(工学))平成15年防衛省入省。入省以来、防衛省における陸海空の自衛隊航空機の研究開発に従事。陸自観測ヘリ、海自哨戒機、空自輸送機の研究開発業務等を経験。平成27年の防衛装備庁発足後、プロジェクト管理部の担当補佐として、次期戦闘機の開発着手に向けた先進技術実証機の研究事業等を行政面から推進。その後、航空装備研究所の主任研究官を経て、令和3年から約4年間、プロジェクト管理部において次期戦闘機のプロジェクト・マネージャーを経験。令和6年10月より現職。

担当：工学系教育研究センター 小崎 完教授